

腎クリこらむ

秋晴れの日が多くなり過ごしやすくなり、冬の寒さを時折感じる季節を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか。もう今年も残すところわずかとなりました。この時期は、朝晩肌寒く感じることもあり日中との温度差もある為、体調を崩しやすい季節でもありますのでお気を付け下さい。関西地方の紅葉の見ごろは、平年よりも若干遅いため紅葉狩りを計画する際は、11月下旬頃に行かれてみてはどうでしょうか。



タケダ腎クリニック
事務 辻本 千鶴
スタッフ一同

暮らしのエコNEWS

毎月16日の「DO YOU KYOTO?デー」は、ろうそくやランプの灯りでお食事を

現在、京都市は市内の飲食店のご協力を得て、毎月16日「DO YOU KYOTO?デー」に店内のライトダウンを行い、ろうそくやランプ等の灯りでディナーを楽しみつつ地球環境を思い、また具体的な温暖化防止の行動に移るきっかけとする「京灯ディナー」を実施しています。平成26年8月末日現在で市内24の飲食店が参加をしています。市民の方々にとって身近な飲食店から環境に配慮した事を実施することにより環境問題への関心が深まる効果が期待できると考えられています。



事務 太田侑希

透析Q&A 教えて智美先生

Q:智美先生、今回は『透析後に血圧が下がる理由』について教えて下さい。

A:今回は、血圧が下がる原因と対策についてお話ししましょう。

透析中に血圧が下がった経験をされた方は多いと思います。
どうしてこのようなことが起こるのでしょうか？
透析中の血圧低下の原因として「プラズマリフィリング(plasma refiling)」が遅いことが理由の一つと考えられます。
では、プラズマリフィリングとは何でしょうか？
透析ではドライウェイトより増加した余剰水分を除水する時に、シャントに針を刺し血管の中から水分を抜きます。通常であれば除水に伴い血管外(間質液)から血管内(血漿)へ水分が移動し、血管内の水分がある一定量維持されます。この水分の移動をプラズマリフィリングといいます。
特に、栄養状態が悪く血液中のアルブミンや蛋白量が少ないと、プラズマリフィリングが遅く(血管内への水の移動が遅く)血圧が下がりやすくなります。

それ以外にも糖尿病や高齢による自律神経障害や心機能、血圧のお薬などの影響で、透析中の血圧低下が出現します。

血圧低下の病態は患者さん一人一人異なります。それぞれの原因に応じて、ナトリウム製剤(塩分)や生理食塩水を補充したり、透析液の温度を下げたり、昇圧薬を内服していただいたりしていますが、体重増加を抑えることで過度な除水を避け、透析中の血管内の水分変動を最小限に減らすことができます。体重増加を意識することは血圧の安定にも繋がります。



院長 武田 智美